

平成 25 年 4 月 24 日

報道関係各位

独立行政法人 国立科学博物館

## 企画展「日本はこうして日本住血吸虫症を克服した —ミヤイリガイの発見から 100 年—」

### 開催のお知らせ

国立科学博物館（台東区上野公園、館長：林良博）におきましては、このたび下記のとおり 5 月 15 日（水）から、**企画展「日本はこうして日本住血吸虫症を克服した —ミヤイリガイの発見から 100 年—」**を開催いたしますので、お知らせいたします。

国立科学博物館は、5 月 15 日（水）から 6 月 16 日（日）の期間で企画展「日本はこうして日本住血吸虫症を克服した —ミヤイリガイの発見から 100 年—」を開催いたします。

日本住血吸虫症は、寄生虫の一種である日本住血吸虫が引き起こす病気で、かつて岡山県、山梨県と九州の筑後川流域などで知られた寄生虫病です。2013 年は、宮入慶之助博士が日本住血吸虫の中間宿主であるミヤイリガイを発見して 100 年にあたります。本企画展は、日本住血吸虫症を克服し、日本住血吸虫を撲滅した唯一の国であること、日本はどのようにこの病気を克服したのか、その取り組みの他、現在も住血吸虫症に苦しむ世界各国の人々を救う日本人研究者の幅広い展開等を紹介し、公衆衛生の意義について考えます。

### 記

【会 場】国立科学博物館（台東区上野公園 7-20）日本館 B1 階多目的室

【開催期間】平成 25 年 5 月 15 日(水)～平成 25 年 6 月 16 日(日)

【入 館 料】常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：600 円（団体 300 円）高校生以下および 65 歳以上無料※団体は 20 名以上）

【休 館 日】毎週月曜日

【主 催】国立科学博物館

【共 催】NPO 法人宮入慶之助記念館、公益財団法人目黒寄生虫館

【協 力】久留米大学医学部、産業医科大学医学部、東京医科歯科大学医学部

獨協医科大学医学部、山梨県立博物館

【展示内容】別添の「展示のポイント」にてご紹介します。

## 担当研究者のプロフィール



### 国立科学博物館 動物研究部 動物研究部長

#### 倉持 利明 (くらもち としあき)

専門は寄生虫学。寄生蠕虫類（扁形動物の吸虫類・条虫類、線形動物、鉤頭動物など）の分類、系統分類、動物地理の研究。日本近海産魚類の寄生虫相を明らかにすることを目指している。

1955年生まれ。東京水産大学（現：東京海洋大学）、東京農工大学卒業。岐阜大学大学院連合獣医学研究科修了。博士（獣医学）、獣医師。

#### 本件に関するお問い合わせ先

国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：吉野、土屋

TEL 03-5814-9175、9887 FAX 03-5814-9899

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

E-mail:kikakuten@kahaku.go.jp

イベント等の詳細については下記をご覧ください。

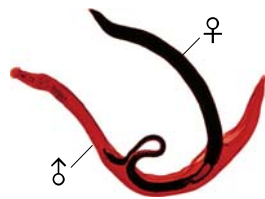
<http://www.kahaku.go.jp/>

企画展「日本はこうして日本住血吸虫症を克服した  
—ミヤイリガイの発見から 100 年—  
展示のポイントと資料紹介

## 1. 日本住血吸虫症および日本住血吸虫とは

日本住血吸虫症とは、かつて日本で地方病として恐れられていた寄生虫病です。原因となる寄生虫は、日本住血吸虫でその幼虫はミヤイリガイという巻き貝の体内で成長し、その後ヒトをはじめ数種の哺乳類に寄生します。ここでは、日本住血吸虫症に関する最古のものであり、医学文書としても世界的に重要な「片山記」に綴られている風土病の恐怖、日本住血吸虫の発見、その中間宿主であるミヤイリガイの発見と日本住血吸虫の生活史の解明などを紹介します。

### 【主な展示】



[圧平染色標本]



[ミヤイリガイ]

日本住血吸虫は、わずか 10 mmほどで、他の寄生虫のように食物とともにヒトの体内に取り込まれるのではなく、幼虫が自ら水中を泳ぎ、ヒトの皮膚から直接侵入します。そのため水田で農作業をする人たちを苦しめました。ヒトの体内に入った日本住血吸虫は門脈系の静脈に寄生し、生み出された虫卵は血流とともに運ばれ、腸管内腔に出て糞便とともに排出されます。しかしこの虫卵が血管を塞栓し、血流障害を起こします。その結果、急性期には下痢を主徴とした消化器症状に始まり、慢性期には発育障害、肝臓の線維化、硬変へと進み、腹水の貯留をみて衰弱死します。

## 2. 日本住血吸虫撲滅への道 —各地の取り組み

日本住血吸虫症という恐ろしい病気を克服し、世界で唯一日本住血吸虫を撲滅した日本。その終息宣言がなされたのは未だ記憶に新しい 1996 年です。殺貝剤の散布、河川の護岸、火災焼却、農作物の転換など寄生虫の撲滅にむけて一体となった医師、研究者、行政、地元住民の取り組みを紹介します。

### 【主な展示】



#### 【殺貝剤の散布】

生石灰、石灰窒素、PCP ナトリウムなどが膨大な費用と労力を投じて散布されました。

## 3. 宮入慶之助伝—学者として、人間として

### 【主な展示】



日本住血吸虫症の予防・撲滅には日本住血吸虫の生活史の解明が必須でした。その中間宿主であるミヤイリガイを発見し生活史解明を成し遂げた宮入慶之助博士と博士が生きた時代について、論文・著書や博士時代の生活用品、ゆかりの地などから紹介します。

[宮入慶之助（1865-1946）肖像写真]

## 4. 住血吸虫のその後、現在、将来

現在も住血吸虫症に苦しむ人々が世界各国にいます。ここでは、世界各地の住血吸虫症と住血吸虫研究の展開、そして日本人研究者の幅広い活躍を紹介します。

## 5. 日本の公衆衛生—現在と将来像

新型インフルエンザ感染症の流行、獣肉の生食による食中毒などが発生する今日、もはやあたりまえとなっている公衆衛生の意義と将来を考えます。

# 広報用写真提供

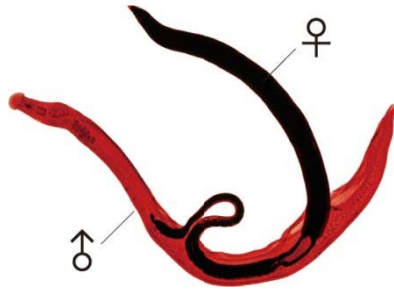
広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの「企画展」写真貸出からお申し込みできます。

([http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/sample\\_photo.php?group=0001347519672417](http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/sample_photo.php?group=0001347519672417))



チラシ  
(日本はこうして日本住血吸虫症を克服した)  
画像提供: 国立科学博物館



扁平染色標本  
写真提供: 国立科学博物館



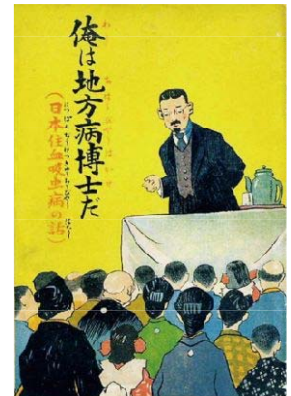
ミヤイリガイ  
写真提供: 国立科学博物館



宮入慶之助肖像写真  
写真提供: 宮入慶之助記念館



殺貝剤の散布  
写真提供: 久留米大学医学部



『俺(わし)は地方病博士だ』  
写真提供: 三沢一也

## 【記事利用の際のお願い】

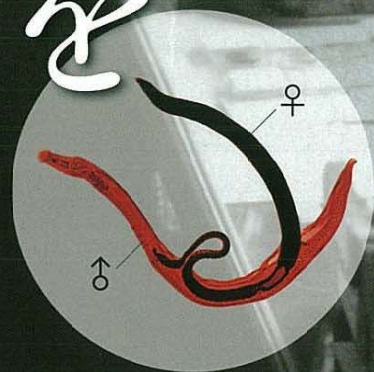
- \* 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- \* 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- \* 展覧会の開催情報紹介欄に、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください。(記事内容をチェックするものではありません。)
- \* ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈広報に関するお問い合わせ先〉 国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 原田、吉野  
電話 03-5814-9855、9858 FAX 03-5814-9898  
E-mail: [shuzai@kahaku.go.jp](mailto:shuzai@kahaku.go.jp)  
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

企画展

# 日本はこうして 日本住血吸虫症を 克服した

ミヤイリガイの発見で  
大勢の人を救った  
宮入慶之助博士



ミヤイリガイの発見から100年

2013年  
5月15日(水)  
▶ 6月16日(日)

【開館時間】 午前9時～午後5時（金曜日は午後8時まで）  
※入館は各閉館時刻の30分前まで

【休館日】 毎週月曜日

【入館料】 一般・大学生600円 高校生以下および65歳以上無料  
常設展示入館料のみでご覧いただけます。（団体300円 ※20名以上）

【主催】 国立科学博物館

【共催】 NPO法人 宮入慶之助記念館、公益財団法人 目黒寄生虫館

【協力】 久留米大学医学部、産業医科大学医学部、東京医科歯科大学医学部  
獨協医科大学医学部、山梨県立博物館

【会場】 国立科学博物館 [東京・上野公園]  
日本館地下1階 多目的室

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20  
ハローダイヤル 03-5777-8600  
<http://www.kahaku.go.jp/>



国立科学博物館  
National Museum of Nature and Science